

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：南房総地域の無加温ハウス栽培に適する食用花の品目			
〔要約〕キンセンカ、キンギョソウ、ストック、ナデシコ及びナスターチウムは、無加温ハウス栽培では、9月頃に播種すると翌年の5月までに十分な収量を得ることができ、栽培管理や出荷調整も容易であり、食用花としての外観や食味も優れている。			
キーワード [※] 食用花、南房総地域、無加温ハウス栽培			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・暖地園芸研究所・野菜・花き研究室 協力機関 安房農業事務所		
実施期間	2008年度～2011年度		

〔目的及び背景〕

南房総地域では、特徴ある花を活用したみやげ品や花を使った食事の開発など新たな取組が始まっている。一部の品目では、切り花に準じた栽培が行われつつあるが、当地域での栽培に適する食用用途での花き品目は明らかでなく、収穫時期や収量などの具体的な情報が無い。そこで、当地域での栽培に適し、無加温ハウス栽培で観光シーズン(12月～5月)に出荷することが出来る品目を選定する。

〔成果内容〕

- 1 食用が可能な12品目を試験したところ、キンセンカ(「オレンジスター」)、キンギョソウ(「アスリートイエロー」)、ストック(「チェリーカルテット」)、ナデシコ(「ダブルエレガンスピンク」)、ナスターチウム(「赤：品種名不明」)の5品目は、無加温ハウス栽培では、観光シーズンである12～5月に収穫花数1000花以上、収穫花重1,000g以上となり、収量性が高い。また、栽培管理や出荷調整が容易であり、外観や食味が優れている(表1、2)。
- 2 キンセンカは、9月上旬に播種すると年末～年明けに収穫が始まる。収穫花数は他品目に比べてやや少ないが、花が大きく1花重が重い場合食用花とした場合に存在感がある。草丈は適度で栽培・収穫作業が容易である(表1、2)。
- 3 キンギョソウは、9月上旬に播種すると収穫が3月末から始まる。花穂から小花を収穫するので、収穫作業はやや煩雑になるが、小面積でも収量を確保することができる。4～5月になると草丈が伸びるため収穫作業はやや困難になる(表1、2)。
- 4 スtockは、9月下旬に播種すると収穫が3月から始まる。収穫はキンギョソウ同様、花穂から小花を収穫するので、収穫作業はやや煩雑になるが、小面積でも収量を確保することができる。草丈は適度で栽培管理は容易である(表1、2)。
- 5 ナデシコは、9月下旬に播種すると年末から収穫が始まる。1花当たりの重さ

は軽い、収穫花数が多い。草丈は適度で栽培管理は容易である（表1、2）。
 6 ナスターチウムは、10月中旬に播種すると収穫が3月から始まる。つる性のため、4～5月には収穫作業がやや困難になる（表1、2）。

[留意事項]

本試験で用いた品種とその他の品種では、収量性等の特性が異なる場合があるため、注意する。

[普及対象地域]

南房総地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 供試12品目の食用花としての評価

供試品目	収量性	作業性	食味	備考
○キンセンカ(キク科)	○	○	○	作業性が良く、収量も多い、食味はえぐみが無く清涼感があり、色合いも良い
○キンギョソウ(コマノハグサ科)	○	△	△	収量が多いが、草丈が伸び作業性が悪い、食味はえぐみや癖が少なく、特徴的な形状で色合いも良い
○ストック(アブラナ科)	○	○	○	作業性が良く、収量も多い、食味はかいわれ大根のような味で非常に良く、サラダにも向く
○ナデシコ(ナデシコ科)	○	○	△	やや花が小さいが、収量が多く作業性も良い、食味はえぐみや癖が無く、色合いが良い
○ナスターチウム(ノアゼンレン科)	○	△	○	つる性のためやや扱いづらいが、収量が多い、食味はやや辛みを感じられるが良好であり、サラダにも向く
●モンマロ(アオイ科)	○	×	△	生長すると草丈が伸びて収穫が困難、食味は良好だがやや粘りがある
●ルッコラ(アブラナ科)	○	×	○	食味はよいが花が小さいため、収穫、出荷調整が困難
●ジャーマンカモミール(キク科)	○	×	○	食味はよいが花が小さいため、収穫、出荷調整が困難
●コスモス(キク科)	×	○	△	収量が少なかったため、栽培時期、栽植密度の再検討が必要
●ヤクマルソウ(キク科)	×	×	△	草丈が伸び作業性が悪い、収量が少なかったため、栽培時期の再検討が必要
●パンジー(スミレ科)	○	○	×	収量が多いが、食味は悪い(特に口に入れた際の食感が悪い)
●ホリジ(ムラサキ科)	○	×	○	草丈が伸び作業性が悪い、花が小さいため、収穫、出荷調整が困難

注1) 供試品目の内、品種名が明らかなものは、ストック「ピンクカルテット」、キンセンカ「オレンジスター」、コスモス「ダブルクリック」、キンギョソウ「アスリートイエロー」であった、○印は選定品目
 2) 収量性：1㎡当たり収穫花数1,000花以上かつ収穫花重1,000g以上を基準とした(○；基準以上、×；基準未満)
 3) 作業性：栽培、収穫管理について評価した(○；問題なし、△；作業性がやや悪い、×；作業性が悪い)
 4) 食味：試験担当者2名が試験期間中に得られた花を生食して評価した(○；優れる、△；普通、×；悪い)

表2 食用花選定5品目の収穫時期及び収量

品目名	試験年度	播種日	定植日	収穫開始日	収穫終了日	収穫花数 (個/㎡)	収穫花重 (g/㎡)
キンセンカ	H22	9/10	9/28	12/31	5/13	1,379	3,731
キンギョソウ	H22	9/10	10/4	3/30	5/13	3,676	2,247
ストック	H22	9/28	10/25	3/1	5/13	5,652	4,080
ナデシコ	H22	8/25	10/4	12/27	5/13	4,440	1,499
ナスターチウム	H21	10/14	11/10	3/2	5/24	3,354	2,454

注1) 栽培は、紫外線除去フィルム (UVソフト) を展張した無加温ハウス内で、ベッド幅80cm、通路幅60cmとして行った。

2) 供試品種は、キンセンカは「オレンジスター」(タキイ種苗(株))、キンギョソウは「アスリートイエロー」((株)サカタのタネ)、ストックは「チェリーカルテット」((株)サカタのタネ)、ナデシコは「ダブルエレガンスピンク」((株)サカタのタネ)、ナスターチウム「赤(品種名不明)」を用いた

3) 栽植間隔は、キンギョソウでは株間20cm、条間10cmの6条植えとし、その他の品目では、株間20cm、条間20cmの3条植えとした

4) 収穫花数及び収穫花重は、試験期間中の12月から翌年の5月まで(調査終了日は、平成21年度は5月24日まで、平成22年度は5月13日までとした)の総収量を、通路を含まない試験区1㎡当たりの収量に換算して示した

[発表及び関連文献]

- 1 平成26年度試験研究成果発表会(観光直売部門)
- 2 プロジェクト研究「南房総地域における観光・直売に適した品目・品種の選定と栽培技術の確立」研究成果集、平成25年3月

[その他]

プロジェクト研究事業「南房総地域における観光・直売に適した園芸品目・品種の選定と栽培技術の確立」(平成22~24年度)